

結 果 報 告

大会名	平成28年度第68回日本ハンドボール選手権大会				
競技日	12月25日(日)	試合番号		回戦	決勝戦
種別	男子・女子	会場	茨城八王子・駒沢体育館		
Aチーム			Bチーム		
大崎電気			トヨタ車体		
得点合計	小計		小計	得点合計	
31	16	前半	14	30	
	11	後半	13		
	1	第1延長(前半)	2		
	3	第1延長(後半)	1		
		第2延長(前半)			
		第2延長(後半)			
		7mTC			

【 戦 評 】

記載者氏名

曾我 将男

2016年を締め括る日本選手権男子決勝は、連覇を狙うトヨタ車体と2年ぶりの日本一を目指す大崎電気の対決となった。

大崎電気のスローオフで試合開始。立ち上がり大崎24番信太の連続得点からゲームは動き出す。車体は20番渡部のサイドシュートや回り込んでのミドルシュートを決めて譲らない。中盤以降もお互い得点を重ね、両者譲らない展開が続く。前半終了直前、25番元木がミドルシュートを決め、16-14で大崎が2点リードして前半を折り返す。

後半序盤はトヨタ車体が、両サイドの7番藤本・20番渡部を中心に得点を重ねるのに対し、大崎は、速い展開に持ち込もうと速攻やリスタートを仕掛ける。中盤は、21番甲斐を中心としたトヨタ車体の堅いディフェンスで大崎の攻撃を凌ぐと、11番津屋の速攻も飛び出し、後半20分24-22でトヨタ車体が2点リードで終盤を迎える。24分に8番東長濱のカットインで追いつくと両者譲らず、大崎7番宮崎のミドルで離すも、トヨタ車体22番門山の速攻で追いつくと、その後、両者得点のないまま30分終了。男子決勝も延長戦に突入。

延長は、トヨタ車体5番高知がミドルを2本決めると16番松村も7mスローを阻止。大崎も9番森がポストから連取する。後半4分、大崎12番木村が7mスローを阻止。終了直前、大崎24番信太がミドルを決め勝ち越すとそのままタイムアップ。大崎電気が、2年ぶりの優勝を決め2016年を締めくくった。